



令和8年2月27日  
3月号 No.487  
発行責任者  
校長 西村 学徳  
所在地 福生市熊川 623

## 一年の締めくくりに ～子供たちの姿から思うこと～

校長 西村 学徳

柔らかな春の陽気に包まれ、玄関前の紅梅が見頃を迎えています。令和七年度の教育活動も残すところ一ヶ月となりました。

三学期の始業式、私は子供たちに「凡事徹底」の話をし、当たり前のように丁寧に取り組むことが、学んできたことを着実に力に変え、新年度への確かな準備にもなることを伝えました。この二ヶ月、子供たちはその言葉をしっかりと形にして見せてくれました。先日行われた六年生の中学校見学では、中学生や先生方のお話を、背筋を伸ばし、程よい緊張感をもって真剣に聞く姿がありました。また、五年生による近隣の四つの幼稚園や保育園との交流会では、園児を思いやり、楽しませようと工夫する五年生の姿が見られ、四月から最上級生になるという意気込みと頼もしさを感じさせてくれました。



5年生から園児へ  
折り紙のプレゼント

こうした子供たちの成長を目にするたび、また、年度末のこの時期になるたび、私は学級担任をしていた頃、保護者会でよく紹介していた「子は親の鏡」という詩を思い出します。

「けなされて育つと、子どもは、人をけなすようになる」

「励ましてあげれば、子どもは、自信を持つようになる」

「誉めてあげれば、子どもは、明るい子に育つ」

「認めてあげれば、子どもは、自分が好きになる」

(ドロシー・ロー・ノルト著 『子どもが育つ魔法の言葉』 PHP 文庫より抜粋)

これらの言葉は、私自身が三人の子の親として、自らの子育てをその都度立ち止まって振り返り、見つめ直させてくれる大切な指針でありました。

このことは、今、校長として向き合う学校経営や教師の学年・学級経営においても同じであると考えています。「子が親の鏡」であるならば、「子供たちは教師の鏡」であり、「学校の鏡」でもあります。私たちは今、目の前の子供たちの姿から、今年度の指導がどうであったのか、子供たちのために何ができて何が足りなかったのか。それらを真摯に受け止め、省みなければなりません。そのうえで、子供たちがより輝くために、私たち教職員がどう研鑽を積み、組織として次年度の指導をどう組み立てていくべきか。現在、全教職員でその準備を進めているところです。来年度も、「子供たちの姿は、本校の教育を映し出す鏡である」ということを忘れず、子供たち一人一人の良さを引き出せる学校でありたいと強く願っています。

保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、この一年間、本校の教育活動に多大なる御理解と御支援を賜りましたこと、心より御礼申し上げます。三月、子供たちが希望を胸に次なるステップへと羽ばたいていけるよう、最後まで全力を尽くしてまいります。